

新潟県

公民館月報



昭和51年12月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市一番堀通町・県教育庁社会教育課内】
【電話・(新潟) 28 6111 内線 326】 【振替新潟
4094】

発行人 会長 石井耕一
編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 70円 年額 840円】

生きたはてに

地面の雑草とともに

雌の小さいとなみが

季節をどんだん払いのけて
のほりつめる

一寸のたましいの

貪欲な模索と彷徨と狐我

やがて

そこにあるものは雄さえもむさ
ほりつくして

とことん生きた果てに

ひっそりと這そうとする

白い強固なたまぎ

(本)

第25回全国大会(東京)の盛況



貴賓席での皇太子ご夫妻

意義深い記念大会

豪華な展開に明日への希望

さる十一月二十五・六日の二日間第二十五回全国公民館大会が東京の国立教育会館講堂(虎ノ門ホール)で開催されたことは、いわゆる文部次官通達が発せられてから三十年、全公連が創立してから二十五周年を迎えての記念大会とあって、皇太子殿下、同妃殿下をお招きし華麗な記念式典が行なわれた。
またシンポジウムメンバーとしての寺中作雄氏

(次官通達当時の文部省社会教育局長) 記念講演講師としての今日出海外(初代文化庁長官)を招くなど記念大会をかざる豪華な内容であった。
第二日全体会の結果、別稿のような大会宣言決議を採択し、最終日程で大会旗は、田村全公連会長から、いよいよ次期大会開催地に決定した本県石井県公連会長へと引き継がれた。

参加者一同に「おことば」

空は晴れ渡っていた。随分朝霞下のおとろけをたまった。庁街の一角、文部省に接する国立教育会館。参加者は一千五百名を越える。虎ノ門ホールでの幕開けは、皇太子殿下らに美智子妃殿下のご臨席のもと、皇宮警衛隊による君が代吹奏にはじまった。
司会はNHKの上アナウンサー。皇国全公連副会長の開式のごとく、田村全公連会長の式辞とつづき、六名の功労者の顕彰、八十九名の永年勤続職員表彰、四十四名の優良職員表彰が行なわれる。本県からは永年勤続職員として新潟市大江山分館主事大沢正一氏、同野野木分館主事菅原忠年氏、柏崎市中央公民館係長野新伸一氏の三名が、また優良職員として加茂市三条第二分館主事西須誠吾氏が、晴れの表彰を受けた。
このあと別稿のような皇太子殿下

宣言決議

皇太子殿下、同妃殿下ご台臨のもとに全公連創立25周年記念式典を行い、続いて第25回全国公民館大会を開いたわれわれは、公民館の業績を反省し将来を展望しての振興方策を研究討議した結果、いよいよ使命の重さを確認し、意義ある25周年を機として公民館の飛躍の充実発展を期するものである。

このため、公民館の使命達成と諸条件の整備について、とくに緊急かつ重要なつぎの事項を速やかに実現されるよう、関係当局に強く要望する。

記

1. 社会教育法を改正して、公民館を義務設置とし、公民館職員の身分資格を明確にするとともに、常勤専任の公民館主事を必置制とすること。
2. 公民館施設費補助の増額をはかり、定率制補助とし、起償許可額を増額すること。
3. 地方交付税における公民館費の単位費用算定基準を合理的に改善すること。
4. 公民館における生涯教育事業促進費を増額すること。
5. 公民館における同和教育をすすめるための諸施策を推進すること。

昭和 51 年 11 月 26 日

全国公民館大会参加者一同

寺中作雄氏が激励

シンポジウムは「公民館の現状 一万をうすなってしまったことと将来への提言」と題し、二名のは、大きな曲りかどであった。国語講師によりそれぞれ提言があった。鷹野助の増額等により、本館の形は、寺中作雄氏は、昭和二一設は年々立派なものが増えて十二一年に、文部省社会教育課長とが、いわゆるコミュニティーを起す拠点としての分館の育成は、つて公民館の創設にあたっては当時、今後の大きな課題であるといひ切りのいきさつ、苦心談について、淡った。
田村元次郎講師は「公民館のあるべき姿と今日の指標」策定に参画した公民館の一そうの努力を要請し、現在もできついで全公連の調査を見た。
この間、一時間三十分、それを省略したため、貴賓席も、おられるのをうけて能率のいい展開を見せた。

例年の大会とちがい分科会討議を省略したため、貴賓席も、おられるのをうけて能率のいい展開を見せた。

石井会長大会旗引き継ぐ



〔大会旗は石井新潟県公連会長の手に引き継がれた〕

さるに全公連の田村事務局長が、歌、ロイヤルナイツ、舞、舞、一昭和五十二年度公民館活動報告、原舞踊団という豪華キャストによつて七、八億八千万円ならびに生涯のブラスバンドを演奏し、教育費補助三十二億一千八百、記念講演は「東西談義」と題し、万田の夢実現運動についての初代文化庁長官の今日出陣氏から議題を提出、東北地区公連から戦争、情報、文学、国際情勢にまつ「公民館記念日」の制定についておおよそ三十分をかけたむげた購で「の議題を提出、討議のあとを演を聞く。一戦場で孤立させられ、あわせて、本人会の宣言決議、たときは、一方的な情報ばかり聞かされることに起る海軍。アメリを、起事委員代表の石井耕氏、力の核ミサイル基地は、複雑な情(公連理事・本会長)が、高、報網を握っていて、四六時中、ミかに別読すると満場の拍手が湧き、サイルのホタン係が動勢してい起り、これが採択された。

この日のお席には、バラエティ、源社が速かに近づかされる。「一「全公連二十五年の軌跡」と題という話に時を傾けさせるものがあった。

皇太子殿下お言葉(要旨)

全国各地において、公民館活動のため、日ごろたゆみない努力を続けておられる皆さんと一堂に会し、全国公民館連合会創立25周年を祝うことは、私の大きな喜びであります。

公民館は、戦後間もなく、民主主義に基づく平和国家を創建するため、地域社会における文化教養の中心施設として発足したものであります。その理想としたところはまことに意義深く、果たしてきた役割は大きいものがあると思います。

私たちを取り巻く環境は、その後次第に変化してきましたが、公民館が発足当時掲げた理想は今も変わらず、その役割はますます重要になってきたことと思います。

この記念すべき年を契機として、公民館に寄せられる期待にこたえ、皆さんが一層力を尽くされるよう望んでやみません。



〔売り出された記念タバコ3,000個はたちまち売れ切れた〕

最後に、大会旗の引き継ぎの緑地に向い全公連のシンボルマーク入りの大会旗は、田村全公連会長の手から、次期会場である本県石井県公連会長の手にしっかりと引き継がれ、石井県公連会長が「来年十月十一日(土)は、ぜひまた新潟でお会いしましょう。」とあいさつ。万歳唱のお閉幕した。

※ ※ ※ ※ ※ ※



「バラエティー」「全公連二十五年の軌跡」で「公民館の歌」を声高らかに歌うロイヤルナイツ

新潟県社会教育講師紹介資料

講師のプロフィール
 内容・B5版・32頁
 ●項目一頭写真・氏名
 ●現職住所電話・生年月日最終学歴・社会教育関係の経歴・現在の活動(著書等を含む) 専門領域
 ●実費一冊二五〇円送料共
 ◎申込先―新潟市一番堀道五、石井新潟県社会教育協会

公民館関係法令集

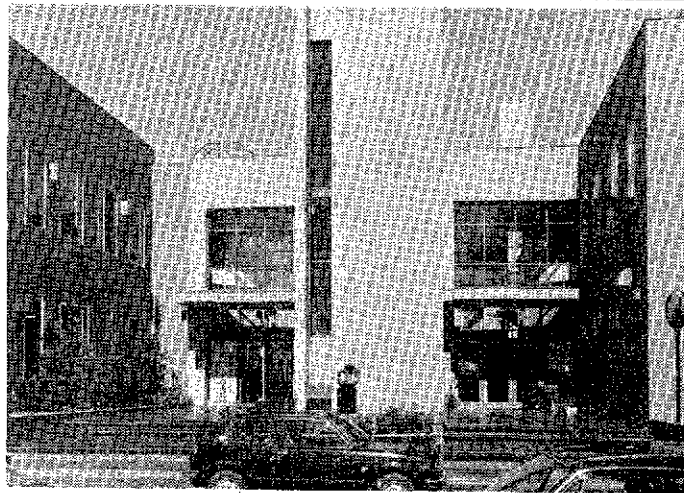
内容・教育基本法・社会教育法・社会教育施行令・公民館運営施設基準・通達「公民館基準の取り扱いについて」
 A5版、34ページ
 一部二五〇円送料別
 公民館関係の諸会議に使用ください。
 申込先・県公連事務局

柏崎市中央公民館に大臣賞

西須、大沢、菅原、仲野 の四氏は全公連表彰

十一月三日文化の日に柏崎市中央公民館が文部大臣賞を受賞し、同館事務長の徳間助夫氏は、皇居で天皇陛下のおことばをたまわった。

十一月二十五日開催された全国公民館大会には、加茂市下条第二分館主事の西須誠吾氏が優良公民館職員として、また新潟市中央公民館大江山分館主事大沢正一氏、同曾野木分館主事菅原忠年氏、柏崎市中央公民館係長仲野新一氏の三氏は永年勤続職員として、皇太子殿下ご夫妻のご臨席の大会々場で表彰を受け、盛大な拍手を受けた。



〔柏崎市中央公民館正面〕



(仲野 新一氏)

(大沢 正一氏)

(西須 誠吾氏)

表 彰 理 由

加茂市下条第2分館主事

西須 誠吾

昭和29年加茂市公民館主事補として勤務以来、社会教育の充実、進展のため献身的努力する。特に青年学級主事として活発に学習事業を展開し、優秀な成績をあげた。また42年度より県公連主事会幹事として、県下の公民館活動に力を入れている。

新潟市大江山分館主事

大沢 正一

在職23年有余の間、終始一貫公民館主事として各種文化団体、スポーツ団体、学習グループの育成に情熱を傾けてきた。特にこれらの団体やグループを主体にした事業活動を通して地域住民の連帯感を高め、市民性豊かな人間味のある市民の育成に努めた功績は大きい。

新潟市曾野木分館主事

菅原 忠年

昭和25年以来26年間、一貫して公民館活動に情熱を傾け、常に新しい着想をもって積極的に取り組んでいる。特に成人男子の社会教育活動の推進や地域に根ざした文化サークルの育成については、すぐれた実績を残している。

柏崎市中央公民館係長

仲野 新一

昭和31年以来、荒浜、西中通、田尻公民館主事を歴任し、現在中央公民館地域係長として、全市18地区公民館活動の振興に貢献するとともに、後輩職員の指導、育成にあたっている。37年県公連大会で優良職員として表彰された。

十一月三日文化の日に、文部省・拝謁・天皇陛下のお言葉
で行われた優良公民館表彰式に列席し、皇居で拝謁の栄に浴した。

以下、当日いただいたお言葉
やお言葉の一部などを紹介し、みい。
なさんと喜びを分かちたい。

喜びを分かちたい

○ 表彰式・文部大臣あいさつ
徳間助夫

徳間 助夫

従来、学校教育
育中心の教育から社会教育を含め
た生涯教育の振興を図ってまいり
たい。地域の社会教育の中心施設
である公民館は、住民の連帯感を
育み、新しいコミュニケーションの
に努力していただきたい。

○ 記念懇談会・局長あいさつ
を高めるための施策を文部省にお
願ひいたしたい。
た。今の感想を駄句に托して披
露いたしたい。
分かち合う幸ひるがりゆ
く秋の天
(柏崎市中央公民館事務)

○ 記念懇談会・私の感想
長い間の仕事に携わってきて
よかったと、今日あらためて思っ
た。現場において日頃思っている
公民館職員の高と士気をいかにし
て高めるかがきわめて大切である
といいつつ、あ
る。
施設の整備充
実とあわせて
職員の高と士
気を高めるた
めには、

資料 歓迎
公民館で作成した資料や
文芸作品集などは館報など
をこまめに送ってくださいませ
か。県内の皆さんへも紹介
してまいりますと思いま
す。

投稿 歓迎
感想文でも結構、折んぶ
れて気遣いばんを走らせて
ください。採用文には粗品
を差し上げておきます。
—編集部—

全国大会参加の記

東京の国立教育会館で開催された第二十五回記念全国大会、本県から三十余名が参加したが、壮重華麗な式典とスマートな大会運営には一様に、公民館の秘められた力を感じたようだ。本県からも大会運営に石井会長（理事）、本田事務局長（広報写真）徳間柏崎市中央公民館事務長（広報総記）と緑の下の力もちの役割を果たした。

国民の常識にしたい

大沢 正一

皇太子御夫妻の御前に、NHK川上アナウンサーより被表彰者として紹介された。社会教育一筋に二十三年間生き、又たのが認められ、感涙で涙が一杯であった。

二十五周年の重み 蓄積された力量を感じる

新しきを知る

仲野 新一

早いもので公民館の仕事に關係して二十二年たった。公民館創立二十五周年記念大会に被表彰者ということで参加の機会を与えていただいたので所感の一端を述べてみたい。

草の根として

伊藤 高

今日の公民館の基礎となった寺中梅嶺、あるべき姿と今日の指環策定の経緯を尋ね、当時の関係者から直接話を聞くことが出来た。公民館がたった二年の軌跡は私が見て来た足跡を見る思いがして感涙。おのものがあつた。二〇年前の公民館は看板一枚で、自分も含めて全公民館人がなればならぬことは論をまたな

十月、町の公民館長を拝命した。その私に、「館長は『何を』とでもやらなければならぬ。わけてはいからまあ気がらくに」といった激励ともつかない祝詞を聞かされた。これが公民館の構想も、その施業にも多くの問題を感じ、現代の花者たちが期待する関係が失われていることを憂へる現状にあることを痛感した。

決意を新たに

高橋 康夫

就任日々、公民館の施設を備不備の専門職員不足による活動の不振の公民館に対する考え方地域差が大きいことに気づき、理事者に情報を提供して、理解と協力を求める決意をした。しかし、そういうながらも「いひすぎか」と今までも遠く無難に……と迷っていた。

疑問も残る

本田 晃堂

戦後教育の一面と高度経済成長政策は国民の「心」に貧困をもたらし人間性と社会性に水をさした。そして生涯教育、地域連携性などの言葉が新しげに注された。本大会でも各ブロック大会でも宣言決議は常に、制度、施設、人等、財政、の充実を文部事務局に訴えている。が、選挙の票集めに忙しい大臣も関係国会議員も欠席、おまそ聴く耳を持たぬらしい。これでは心豊かな国家社会は望めないし、総理の言いつけに生涯教育はお題目で終わる。社会教育の現場で後に行行政のゆめめしを食いつつも個々の地域で世論を盛り上げつつも地道に情熱を傾けて功績のあった被表彰者として頭大会の運営にはいささか疑問を残す。来年の新潟大会に大々期待したい。(湯沢町公民館長)

静かに燃えるもの

上村 捨二郎

「理事会に誰が委を任せな」といふ言葉を、判で押したあつていたものかと思つた。叫んでいた往年の大会にくらに思う。さらに、公民館は、白く、争かの中に燃える情熱を秘の内部の充実によるイメージを区画することでも、個々の数に際してもことだから取皮するが、今日の生活圏取



大会の介休をとおして主張されていたことは、二五年の歴史を振り返

ンパーが立派な主婦となつて育児に家庭管理に腕を振っている様子を見るのは心強い。また婦人會員の方々が何時の間にか老人クラブの會員になっている等公民館の意より眺める背徳交感に感涙深いものがある。

この際、行政当局に対し、学校教育を通じて国民の全般常識として普及するよう働きかけていただくよう要望したい。

今日の公民館は体制も整備され活動も活発になった。しかしその活動に内容が充実されると共に学級中心に傾斜し地域の課題に充て公民館は何をなすべきかが薄れて来ているのではあるまいか。

だが、例年繰り返される宣言決議が同じ内容にならないで進むものに祈るものである。今大会中にシンポジウム、全体会の中で心に残った宣言として、公民館は「行研究」し、その成果をふまえての宣言決議。誠に有難義な大会だった。来年度の新潟大会が期待される。その時はぜひとも参加して、本県の公民館振興に、今更同志力を合わせ、知恵を結集してその実現を強く要望したい。

（与板町公民館長）

新潟市山ノ下分館



【今後が期待される山ノ下分館の勤労者学校】

実践記録シリーズ

19

「実践記録」のあれこれ、いろいろと反響を呼んでいます。あなたもぜひ書いてみてください。

模索の勤労青年学級

「傷だらけの青春—その愛と死—」

「青春には様々な姿があり、そのおのおのが、多かれ少なかれ傷つき、傷つけあって生きて行く。ある若者の生きざまを追うことによって我々の青春、我々の生き方を考えなおしてみよう」と開く講座

10月12日
中原中也の恋のゆくえ
—中原中也・長谷川幸子—
小林秀雄

10月26日
本逕治について
—その文学と人生—

11月9日
心山のドラマ
—青春における愛と死—
(大学教授)

11月16日
既成秩序に反抗した女性の青春
—高野すずか・斎藤寒村、そして幸徳秋水—
(高校教諭)

11月30日
俺たちにロマンはあるか?
—男のロマンと女のロマン—
(青年の家所長)

そして、合体系マが、「傷だらけの青春—その愛と死—」と来る。

いやあ、キザですねえ、仲々。これだけキザに徹すれば、若い

ねえちゃん、ワンサと来るに決まってる。思い込んでるのは、担当者だけだったよ。応募状況悪し。来るのは、55才のおばあさん、50才のお父さん。若い連中は戻ってるんかいな。何やっとなじ

「放送利用」といっくか

ふたをあげた初日、参加者31名少し、カクッ。2回目、34名、少し、ニユッ。で、今、3回目の開講を待っているところ。新潟市の山ノ下地区、新潟市一番の公害地帯、人口の流入流出激しく、所謂「まとも」ばかりで地域連帯感乏しく、勢力を誇るは、老人クラブのみ。この山ノ下で青年対象の講座は可能か。数年前、先輩が、青年教養講座を開講したが、出席不調で、カククリしたという。大学教授を講師に頼めば、「こんな騒がしい所では話ができない。」とおられたという。程、騒音のひどいオンボロ庁舎。中央公民館で開く講座は、い

や。やっぱり、山の下じゃ無理なんかねえ。こういふのは、だいたいの、山の下公民館知ってる人は、絶対来ないぜ。あのオンボロ庁舎じゃねえ。そんなことないよ、山の下にだって青年はいらんのだろ。町内回覧だつて回したんだし、ええい、日報さんに頼むか。で、新潟日報、月17日朝刊新潟版、

「すばらしい内容なのに……山ノ下公民館の勤労青年学級「文学コース」人気さつぱり」。申込み切の9月23日。応募者49名。ホッ。

ごあんない

県放送利用研究会

- 名称 豊かなあしたへの社会教育
 - 期日 新潟県放送利用研究会、昭和五十一年一月二十五日(火)午前十時〜午後四時
 - 会場 新潟市中央公民館ホール
 - 主催 NHK新潟放送局・新潟県教育委員会
 - 後援 新潟県公民館協会・新潟県社会教育協会
 - 対象 社会教育主事、公民館・青年の家等の社会教育施設職員、農業教育関係者
 - PTA・自主グループのリーダー
 - その他社会教育関係者
- その他社会教育関係者
社会教育において、放送利用の学習をどのようにとり入れたらよいか。
- 内容
開会行事 一〇・〇〇〜一〇・〇〇
あいあつ 新潟県教育委員会 休養
会議 新潟県教育委員会 休養
会費 新潟県教育委員会 休養
NHK新潟放送局長 川原 清
NHK新潟放送局長 川原 清
NHK新潟放送局長 川原 清
- 閉会行事
一五・五〇〜一六・〇〇
閉会のことば
NHK新潟放送局長 堀 成英

「これはからの社会教育と放送利用」
登壇 新潟県教育委員会 社会教育主事 上村 啓郎
新潟市テレビ放送利用協議会 五木 静枝
新潟市中央公民館社会教育主事 山田 峰夫
「これからの社会教育と放送利用」
登壇 新潟県教育委員会 社会教育主事 上村 啓郎
新潟市テレビ放送利用協議会 五木 静枝
新潟市中央公民館社会教育主事 山田 峰夫

あの頃のこと



僻地の生活 ② 俵山喜秋

当時魚沼山間地帯の子供たちは、どんな遊び、どんな夢で、その夢を言ってもらいたか思い出してみたい。

先ず雪淫えの独樂遊びがある。それも手製の「ずづぐり」と称する星型型の独樂遊びであった。丈夫の雪が次第に溶えて、市面した家々の庭元が春日に乾き上るのを待って、この「ずづぐり」を打ち合うのだ。学校の退けるのを待ちかねて駆け出し、日の暮れるのも忘れ夢中で遊んだ。独樂がこわれたり、雪穴へ陥じ込んだりすれば、すぐ又千両の松や杉の枝を削って作るのだった。

又春融ともなれば、桑の木を削って作った木剣を持っての、切り合いごっこである。立川又陣(豆本といふ)の中の人気者徳飛江助も霧隠才助を真似て、呪文を唱え九字を削って陰を飛び下り小川を飛び越えた。分校の縁下には流石に下敷木の木剣を秘蔵したものである。

桑の木の手で舌に刺しぬき三郎も珍しかった。

さてどうした独樂遊びや切り合いごっこに限らず、当時の子供たちは遊び道具を季節にあわせ発想を工夫し、創意を凝らして遊んで来た。次に子供関係の行事としては正月の節遣い、災の神、田子飾り、春秋の鎮守祭り盆踊等があげられる。中でも田子のものは正月の鳥居を打って山野をまわった。夕方になると堂の中へ入って鐘

の真ん中に深さ三米近く、広さ六畳位の鳥追の筆と称する雪氷を作り上に水木の枝を掛け渡し、これを薬で厚く被う。そして穴の中央に炬を切り、鈎付けを下げ縄をかける。鳥は鳥追の歌を歌い乍ら、拍子木を打って山野をまわった。

訂正 お詫び
11月号、記事(写真)
訂正 お詫び
11月号、記事(写真)

あとがき
九月七・八日の県公民館大会、九月二十五・六日の全国公民館大会は、近藤館長に代わって出席した。十一月三日文化の日は、柏崎市中央公民館の文部大臣賞受賞式には、近藤館長に代わって出席した。

で煮た餅を、めいめい重箱に用意してきな産粉にまぶして食べる。上げます。その旨さ、十時頃まで歌舞などしてから一回「焼くぞ」と叫んで堂に火をかける。やがて方々の鳥追の堂が焼かれて空を真赤に染め、その壮麗さ、こうした行事によって子供達の夢は無限の広がりをもち、その豊かな心情が養われたのである。

(前千谷市公民館長)

青海町須沢地区館長 浜野 勝樹 氏 と
入広瀬村教育長 酒井 達吉 氏
※ お送りいただいた写真は、それぞれ裏面に、公民館名、職員名等を記し大切に保存しておられることを願います。(編集部)

全国大会の準備もすめるといふ大会致れにあってはいます。柏崎市中央公民館の徳岡事務局長は、この間、県大会の現務事務局のお世辞、県公民館大会では「複合施設の運営について」と題した発表者として活躍、さらに全国大会では、広報係として「大会総記」を担当するまで、まさに八面六臂の大活躍。

昭和51年度(第14回) 新潟県広報コンクール実施要領

- 趣 旨**
県内の市町村における広報技術の向上と広報行政の健全な発展に寄与するため、昭和51年中(1月~12月)に発行又は製作した広報紙及び広報写真等につき、優秀なものを選奨する。
- 主催**
新潟県広報協議会
- 後援**
新潟県 新潟県教育委員会 新潟県市長会 新潟県町村会 新潟県公民館連合会
- 種 目**
 - (1) 広報紙(市の部、町村の部)
 - (2) 広報写真(一枚写真=自由・課題、組写真)一枚写真の課題は「わがまちの文化」(文化活動、文化施設、文化生活、文化財など)とする。
 - (3) 有線放送(自主制作番組)
 - (4) 広報展示物
- 審査対象**
市町村及び市町村教育委員会等が広報を目的として昭和51年中(1月~12月)に発行又は制作した広報紙、広報写真、有線放送テープ、展示物とする。(以下テープ・展示物の説明は省略)
- 参加規定**
 - (1) 広報紙
 - ア 毎月1回以上定期的に発行し、一般に配布されているもの(特集号を除く)のうちから1点、ただし、審査用として10部提出のこと。
 - イ 応募紙の表紙上欄空白に「参加作品」と朱書する。
 - ウ 次の「参加作品調書」を1部添付する。広報紙名、発行日、1回の発行部数、年間の発行経費及び1部当たりの経費
 - (2) 広報写真
 - ア 一枚写真は4つ切、組写真はキャビネ判5枚前後とし、いずれも白黒写真とする。
 - イ 広報担当者の撮影した作品で、広報活動に使用したものであること。
 - ウ 応募作品には、題名、自由、課題の別(一枚写真)、使用方法(広報紙、展示など)使用月日、撮影者氏名を記載した調書を添付する。
 - なお、組写真については各写真ごとに簡単な説明文を添付するとともに配列順序を表示する。
 - エ 応募は一枚写真、組写真とも1市町村につき各3点以内とする。
- 応募期限**
昭和51年12月25日(土)
やむをえず遅れる場合は、あらかじめ連絡すること。
- 作品の応募先**
新潟市学校町通一番町(郵便番号951)
新潟県総務部県民広報課内
新潟県広報協議会
- 審査**
審査は、県広報協議会会長が委嘱する審査委員により行う。
- 審査結果の発表**
昭和52年1月末日までに応募市町村に通知する。
- 表彰**
各種日ごとに最優秀賞(知事賞)1点と入選若下を表彰するものとする。ただし、応募作品が著しく少ない場合は、表彰は上記にかかわらずその取扱いを審査委員会に一任するものとする。